

たわわに実ったデュラム小麦を刈り取る児童（淡路市で）



たわわ パスタ小麦

淡路市野島常盤の麦畑で11日、小学生と保護者らが参加して、パスタの原料になるデュラム小麦の収穫体験会が開かれた。6人の児童は黄金色に染まり始めた畑に入り、県北淡路農業改良普及センター職員から指導を受けながら、たわわに実った麦穂を鎌で手際よく刈り取った。

同市の製麺業「淡路麺業」が主催。デュラム小麦はパスタに最適な品種で、多くを輸入に頼っているが、同社は市

淡路 小学生ら収穫体験

内の3軒の農家に依頼して2年前から栽培している。出雲文人社長(38)が、島内でも育てられることを子どもたちに伝え、地産地消の大切さを知ってもらいたいと企画した。

洲本市から参加した小学2年、西岡華暖さん(8)は「大好きなパスタの原料が栽培される様子を見ることができて、勉強になった。宿題の日記に書いて、学校の友達に教えてあげたい」と話していた。